

MANAGEMENT 11

2016 NO.321

SQUARE

マネジメントスクエア

■まもづくり発達史 特別編

さらなる発展に向けた 県内農業のポテンシャル

——アグリビジネススクール受講者に聞く—— 〈後編〉

■創業社長のことば——わたしのリーダー論

遠藤優介

[株式会社遠藤商事ホールディングス 代表取締役]

■会社を強くする！ 実践経営塾

マルチタスクで生産性をアップする



ドイツ製のレーザー加工とパンチ(穴あけ加工)の複合機。高価な機械だが新人にも操作させ、壊れたら自分で修理させる



「1年目からこれだけ責任のある仕事を任せられるとは思っていませんでした。できることがどんどん増えていくので自信につながっています」

失敗しても、うまくいかない方法の発見として評価する

失敗を評価する企業文化も必要だと井

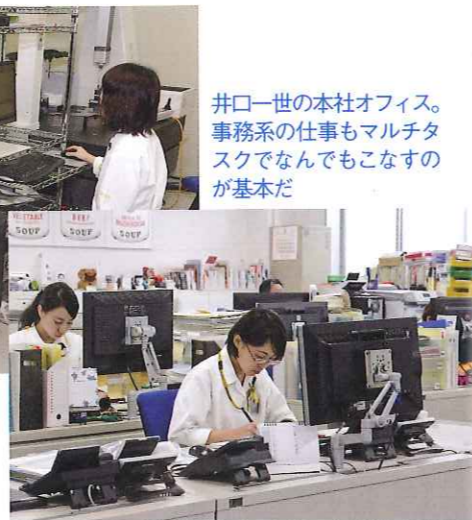


井口一世の本社オフィス。事務系の仕事もマルチタスクでなんでもこなすのが基本だ

恒温室で画像測定して仕上がりの寸法精度を確認する。検査しているのは入社1年目の金澤佑未さん

1年目で、綿が水を吸い込むようになっても吸収していきます」

ちなみに社員の約8割が女性である。男性よりも適応能力においては高いというのが井口社長の評だ。入社して半年で採用担当と品質管理を兼任している金澤佑未さんは、次のように話す。



あらゆる工作機械を全社員が操作する。失敗や故障も、新たな加工方法を追求していくための貴重なデータとなる

人や医療関係者で、天草や熊本県民の足となっている。株主割合も熊本県と天草市、上天草市、苓北町を合わせると約80%になる。経営的には自治体からの補助で黒字を

保っている状態だ。

「まだ搭乗率が50%程度なので、天草エアラインを広く知ってもらうために、去年4月に日本航空とコードシェアをしまし

た。観光客向けのツアーも企画中です」

営業収益の確保とともに、マルチタスクが天草エアラインの運航を今後も支える両翼となることは間違いない。

株式会社井口一世

■会社概要

設立	2001(平成13)年
代表者	井口一世
所在地	埼玉県所沢市所沢新町 2553-3
資本金	9,500万円
売上高	78億円(16年3月期)
従業員数	37人
事業内容	精密機器の部品製作販売、各種精密機器の開発、各種ソフトウェア開発販売等

マルチタスクに向く人材を積極的に採用し育てる

ITを活用した金属の塑性加工を得意としている(株)井口一世では、製造系、事務系を問わず、すべての業務の垣根を越えたマルチタスクを実施している。入社1年目の新人社員にも高価な工作機械を触らせ

て使い方を覚えさせ、多能工にしてい

「マルチタスクにすると、業務のボトルネックがなくなります。複数の工程をこなせる人がいれば、手が空いているところから忙しいところに移って作業ができます」と井口一世代表取締役社長はその効果を説明する。

同社にはレーザー加工機や曲げ加工機、ワイヤーカットなど多数の工作機械があり、修得した機械が増えるほど給与アップにつながる。社員は年に12回、ほぼリアルタイムで努力を評価してもらえ、機会があるわけだ。年に3回ベースアップする人もいるという。

「すべての機械について評価基準となるスキルマップを作っており、操作できる、修理ができる、プログラムが組めるというのがポイントで、修得したらきちんと評価することが大事です。これからCTO(最高技術責任者)に育てようと思っ



井口一世代表取締役社長。社長の名前がそのまま社名になっている。「会社を始めた当初は2人しかいなかった。その後、人数が増えても分業化せず、できるだけ一人でもできるようにしてきました」

いる女性は、全機種を経験させています」マルチタスク化には、何よりも人材選びが肝心だと井口社長は強調する。それだけに採用には神経をつかう。毎年10人の大学新卒採用を目標としている。2016(平成28)年4月入社の新入社員は6人。約1000人の応募の中から厳選した結果だ。あえて選んだわけではないが4人が文系の女性だった。

口社長は語る。

「最初に機械を触る時は、とにかく自力でやらせます。転ばぬ先の杖はついてはいけません。人から教わるとそこで癖がついてしまふので、よほどのことがない限りは手を貸しません。エジソンは、失敗はうまくいかない方法の発見と考えていたと言います。だから私も、皆にたくさん失敗してほしいと思っています」

その失敗の数々は、次の加工に活かすためのビッグデータとなっていく。初めて使う社員がどんな失敗を重ねてくれれば、それだけ自社独自のノウハウを蓄積していくことになるというわけだ。

「どこもできなくて困っているような難しい仕事ほど、当社では大歓迎です。その結果、世界中でうちしかできないものを作ることができるようになります」と井口社長は自信のほどを見せる。

今から15年前、プレス産業も金型産業も海外に出て行き、日本でやっても来がないと考えた井口社長は、コンピュータによるデータ解析を活用して金型も切削工程もいらぬ加工技術を武器にこの会社を興した。多品種少量生産品ならば、金型以上に高精度でありながらコストを大幅に下げられる。そのメリットが受け入れられて、ここ数年の売り上げは年率10%以上で上昇し続けている。

「私はモノづくりについて新しい考えを



16年4月の新入社員は6人。うち4人が文系の女性だ

持っています。過去に経験した加工の過程はすべて数値に置き換えてデータベース化する。人間がやる創造的な仕事は、その中から筋の良いデータを抽出することです。抽出したデータを使って加工するのは高性能の機械に任せます。その結果、熟練工でもできないような仕事が可能になるのです」

工場の中は白を基調とした明るいデザインで、工作機械にはすべてデータ収集用のタブレット端末が付いている。作業をする社員は軍手をはめていない。社員の平均年齢も30.4歳と若く、いわゆる町工場イメージとはだいぶ異なる。

「今後は管理職も増えますが、プレイングマネージャーとしてやはり次々と新しいことに挑戦してもらいます」

金属加工だけでなく、プラスチックや紙の材料も手がけていくという。マルチタスクで新たに覚える業務は、次々と増えていきそうだ。